



HAC、ATR42-600型機 4機目の導入を決定

～北海道全体の発展と札幌市の活力向上を目指す「丘珠空港の将来像」の実現に協力します～

1. HAC 就航 25 周年を迎える 2023 年、ATR42-600 型機の 4 機目導入を決定しました。
2. 道民の翼 HACとして、北海道・札幌市の活力向上を目指す「丘珠空港の将来像」の実現に協力してまいります。

北海道エアシステム(本社:札幌市東区、代表取締役社長:武村栄治、以下、HAC)は、1998年に北海道の地域航空会社として就航してから25周年を迎える2023年に、北海道を空から元気にするため、これまでの3機体制から増機を行うこととし、今般、4機目となるターボプロップ機「ATR42-600型機」の導入を決定しました。2023年秋の運航開始に向けて準備を進めてまいります。



HACは、日本の国土面積のおよそ22%を占める広い北海道において、「札幌丘珠空港を拠点に各都市を近くて速い交通手段で結び、安全・安心でお客様が親しみやすい空の旅を創り、地域社会と北海道の発展に貢献する。」をビジョンに掲げ、日々の安全運航に取り組んでいます。HAC4機目を活用し、ますます利便性の高まる北海道の空の旅に是非お出かけください。

■受領・就航スケジュール *スケジュールは変更になる場合がございます。

- ・2023年9月中旬 ATR社から受領
- ・2023年10月中 就航開始※

※夏ダイヤ期間中は、この4機目を活用し、札幌丘珠から女満別線2往復、釧路線1往復、函館線1往復を増便予定です。準備が整い次第、販売開始についてご案内します。

【ATR42-600型機の特徴】

コックピットは、最新のグラスコックピットにさまざまな航法機器を装備し安全性が格段に高くなるとともに、新進入方式として「LPV進入方式」(*1)を日本初の取り組みとして導入し、離島などの就航率の向上につなげています。

機内は、広く明るく静かで快適であるとともに、手荷物の収納能力を向上させるなどスペースも広く、また高翼機(*2)のため全座席から均等に窓下の景色を堪能でき、機内から間近に雄大な北海道の景色を楽しみながら、ゆったりと空の旅をお楽しみいただけます。

加えて、ATR機はそのサイズ感や徹底した軽量化により、100席以下のジェット機の約半分程度の燃料消費量で目的地に到着することができます。(*3)北海道の自然環境に優しいエコな航空機です。

(*1)2022年9月14日付プレスリリース第22003号「日本初となる衛星を活用した新進入方式の運用を開始」

(*2)高翼機とは主翼を一枚しか持たない単葉機のうち、胴体の上端付近に主翼が取り付けられている航空機のこと。

(*3)HACが運航する1時間前後の運航の場合の比較。



【「丘珠空港の将来像」の実現への協力】

HACは、北海道、札幌市、丘珠空港ビルと連携しながら、道内航空ネットワークを充実させることで北海道・札幌市のさらなる発展と「丘珠空港の将来像」の実現に貢献するべく増機の検討を行い、このたびATR社と4機目の航空機売買契約をすることになりました。

今後、HACとしても丘珠空港を医療・防災を支える道内ネットワーク拠点としてその機能を高めることに協力させていただくとともに、道内路線を維持拡大し、ビジネスや医療従事、通院など、社会生活にとって重要な路線として、市民・道民の利便性向上へつなげたいと考えております。

また、定期便やチャーター便を通して、ビジネスや観光による交流人口を増やし、北海道・札幌の活力向上を図ることに貢献していきたいと考えております。

HACはこれからも、道民の翼として近くて速い交通手段として、地域社会と北海道の発展に貢献し続けるとともに、北の運航のプロフェッショナルとしてお客さまが親しみやすい、安全・安心な空の旅を創ってまいります。



札幌上空からの丘珠空港
(札幌丘珠空港ビル株式会社提供)